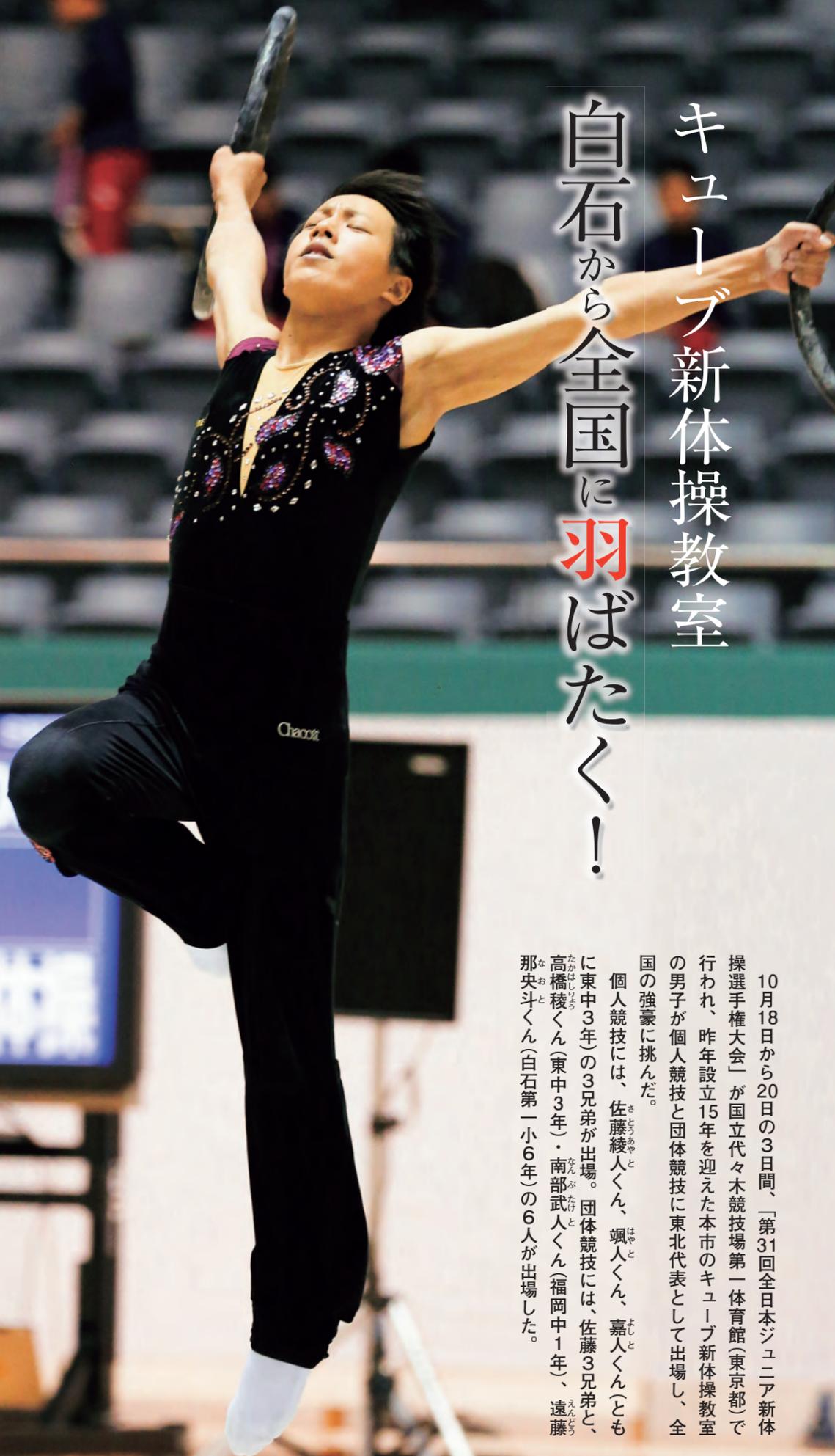


【個人競技】リング、スティック、クラブ、ロープの4つの手具を使用。リズム感ある多様な動きと手具の特性を生かした巧みな手具操作や転回系で創作され、手具と身体が一体となったダイナミックな演技で競われる。演技時間はそれぞれ1分15秒～1分30秒。

キューブ新体操教室

白石から全国に羽ばたく！



10月18日から20日の3日間、「第31回全日本ジュニア新体操選手権大会」が国立代々木競技場第一体育館（東京都）で行われ、昨年設立15年を迎えた本市のキューブ新体操教室の男子が個人競技と団体競技に東北代表として出場し、全国の強豪に挑んだ。

個人競技には、佐藤綾人くん、颯人くん、嘉人くん（ともに東中3年）の3兄弟が出場。団体競技には、佐藤3兄弟と、高橋稜くん（東中3年）・南部武人くん（福岡中1年）、遠藤那央斗くん（白石第一小6年）の6人が出場した。

個人総合で佐藤綾人くんが2位入賞 夢の舞台！「全日本新体操選手権大会」に出場

個人競技には、9つの地区予選を勝ち抜いた47人が出場。個人競技はスティック、リング、ロープ、クラブの4種目が2日間に渡って行われ、佐藤綾人くんがキューブ設立以来初の表彰台、個人総合2位に入賞し、11月22日～23日に開催された「第66回全日本新体操選手権大会」への出場を果たした。また、嘉人くんは5位に入賞し、颯人くんは10位と健闘した。キューブ新体操教室の柴田佐和子監督と本多和宏コーチに大会を振り返って、佐藤3兄弟の演技について伺った。

綾人はメンタル面で大きく成長！

中学生とは思えぬ質の高い芸術性あふれる動きで観客を魅了。1種目のスティックは、試技順が早く点数を抑えられた感はあるが、ノーマイスでまとめ勢いに乗ることができた。その後の種目も勢いに乗ったまま演技切り、4種目とも綾人らしさを存分に発揮した大会であった。また、全種目ノーマイスという結果は、メンタル面での大きな成長をはっきりと確信でき、ジュニア最後の大会を有終の美で飾ることができた。

嘉人は演技の質が大きく向上！

ロープ以外の3種目で投げ受けのミスが目立ち、昨年と同様の5位という順位

に終わった。ミスがあったものの、動きの大きさや質、タンプリングの難度などの上は十分にみられた演技内容であった。普段の練習時から、一つのミスを引きずる傾向があり、今後はメンタル面をコントロールする強さを身に付けることで、より一層の活躍が期待できる選手である。

颯人は表現力が武器 今後に期待！

練習では佐藤3兄弟の中で一番安定していた颯人だが、本番では思いも寄らないミスが続き、10位という結果に終わった。1種目のスティックは、本年度力を入れて取り組んだ「表現力」を存分に生かした作品であった。今まで取り組んだことのない振り付けであったが、その難しい振り付けを完璧にこなし、ひととき観客の目をくぎ付けにしていた。しかし、最後の投げ受けが落下し、観客席から大きなため息がもれる場面も。その後の3種目も立て直すことができず、すべての種目でミスがあり、本来の実力が発揮できない悔しい結果となった。

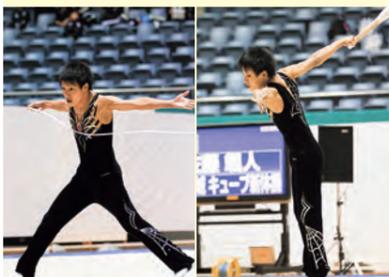
ミスが目立ったにも関わらず、10位に収まったことは、持ち前の巧みな手具操作に加え、タンプリングの難度や表現力の向上があつたの順位。ジュニア最後の苦い経験を今後につなげることで、さらなる飛躍が期待できる。

佐藤 颯人くん
Hayato Sato

個人総合10位



スティック 種目別9位
リング 種目別11位



ロープ 種目別21位
クラブ 種目別5位入賞

佐藤 嘉人くん
Yoshito Sato

個人総合5位入賞



スティック 種目別13位
リング 種目別4位入賞



ロープ 種目別4位入賞
クラブ 種目別7位

佐藤 綾人くん
Ayato Sato

個人総合2位入賞



スティック 種目別3位入賞
リング 種目別2位入賞



ロープ 種目別2位入賞
クラブ 種目別2位入賞